

令和 2 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名 : グループホーム にこピア浄法寺

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0391300019		
法人名	株式会社 サンメディックス		
事業所名	グループホーム にこピア浄法寺		
所在地	〒028-6911 岩手県二戸市浄法寺町上前田34番地		
自己評価作成日	令和3年2月3日	評価結果市町村受理日	令和3年5月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

元小学校という事もあり敷地、建物と広大なスペースである。建物内はバリアフリーとなっており、行動に制限を与える造りではない。広いスペースを生かし雨の時は体育館を散歩。ホール、廊下も広く移動する事がADL低下防止にも繋がっている。ホール、居室から見渡す景色もよく利用者様からも「見晴らしがいいところだ」とお言葉を頂戴している。事業所として介護福祉士取得率は85%となっており専門知識を生かしたケアを実践している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action\\_kouhyou](https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

旧浄法寺町にあって、県道から数キロ入ったかつて集落の中心的存在だった高台の小学校をリニューアルして開設された事業所である。施設の2階にグループホームがあり、1階には小規模多機能ホームを併設している。ゆかりの乏しい地への開設であったこともあり、地域とのおつきあいがスムーズに運ばないくらいが以前はあったものの、運営推進委員の助力もあり、今では昔話になってきている。チームワークの良さを事業所の強みとし、管理者、介護リーダー、経験豊かな介護職員が一致協力し、利用者に安心して暮らしていただくためには、如何に多忙であってもそれを利用者に覺られない利用者中心の介護を実践している。職員から募って決めている事業所の年度目標は、今年度が「温故知新」、来年度は「家給人足」としている通り、チームワークを活かしながら、利用者に焦点を合わせ、利用者を中心に置いた運営に努めている事業所と言える。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和3年2月25日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎年事業計画をたて目標を設定している。項目ごとに活動計画を把握して進捗状況を確認している。	職員からキーワードの提案を募り、毎年1月には翌年度の目標を設定している。本年度は「温故知新」とし利用者の知識・経験を活かした介護を実践し、来年度の目標は「家給人足」として、利用者・家族・職員が三位一体となって、皆が満足できる介護を目指すとしている。	管理者のリーダーシップと補佐役を務める介護リーダー、経験豊かな介護職員が一体となって、地域の支援を得ながら利用者中心の運営がなされております。今後とも職員の発意を活かし、在るべきグループホームの形を思い描きながら運営されることを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	昨今の情勢により外出の機会が減少し満足度の低下が見られている。可能な方法を見極めて最低限ではあるが外出して地域と交流の機会をつくった。	毎年参加していた地域のお祭りや文化祭は、コロナ禍で中止となり、ボランティアの訪問もお断りし、利用者と地域との繋がりが一時的ではあるが途絶えている。一方、市社会福祉協議会の支所とは以前には係わりが希薄であったが、今では、民生委員研修会に招かれ、事業所の機能や認知症について講話する機会をいただくまでになっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方を対象に勉強会を開催して認知症の理解、施設内容の理解と伝達の機会を設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営状況、利用者状況を伝えている。メンバー様からアドバイスを頂戴して、改善点を見つけ施設運営の発展に繋げている。	コロナ禍のため8月までは書面開催としていた。比較的介護度が低い利用者とその家族も委員として参画している。入居者の状況、行事の様子などを報告し意見交換が行われ、今年度は特に、コロナの感染防止対策に委員の関心が高い。消防団分団長を務める委員の尽力を得て、今年も避難訓練に多くの消防団員が駆け付けている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	施設状況の伝達、情勢、動向について情報交換をしている。情報をもとに運営に役立てている。	市の総合福祉センターから行政情報や利用希望者の情報を提供していただき、事業所運営の力になってもらっている。近々予定される介護保険制度の見直しに伴い、広域行政事務組合の指導を得る機会が増えるとしている。地域ケア会議には併設の小規模多機能ホームのケアマネが参加している。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム にこピア浄法寺

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会活動を通じて身体拘束の理解に努めて実践に繋げている。	身体拘束の三原則に当たる拘束はないが、家族の同意を得て1名の利用者にセンサーマットを使用している。年4回の研修会等を通じ、職員はスピーチロックを十分理解しており、また、事例はないものの、ドラッグロックを今後のテーマとしている。2階の事業所と1階の小規模多機能ホームとの間に施錠はなく、見守りで対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待について勉強会を開催して知識の教養をしている。他に面談による職員のメンタルケアにも努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護について勉強会を開催して知識の教養をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、書面に沿って説明をしている。疑問点、不明点には事例を交えて理解していただくよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	情勢について面会の機会に対する声が多かった。希望について職員と話し合い。可能な方法を模索してできる限りの範囲で要望を実現させた。	コロナ禍で家族の来訪が制限され、意見・要望を聴き取る機会が少なくなっている。毎月の広報で家族に面会中止をお知らせしているが、それでも会いたいと電話をしてくる方も居るなど、家族の要望の一番は、利用者に会いたいことと受け止めている。家族から肌着購入の依頼があれば、サイズを熟知している職員が対応している。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム にこピア浄法寺

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送りの時、職員会議の場を活用して意見を述べる機会をつくり極力要望に応えるよう調整をしている。	管理者は、日常の会話や介護の様子から、職員が利用者から目を離せない状態で介護に携わっているながら、利用者が安心して暮らせる介護に努力していることを十分理解している。その上で、日常の業務はもとより、職員会議や年4回の個人面談を通じ、職員の様々な意見・思いの把握に努めている。職員から提案されていた各居室へのエアコン設置も具体化された。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則、雇用契約を把握したうえで業務についている。定期的に面談を実施しており、職員の状態を確認しながらやりがいをもって働けるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各月に担当者を配置して勉強会を開催している。各職員より伝達講習をして、話す力を養っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣事業所と情報交換をして介護保険、地域の動向を確認している。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談の際、契約時と利用者様、ご家族様より情報をとっている。不明点、不安な点について説明をして安心して利用していただけるよう配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前、家族の要望を聞き支援計画を作成している。後に要望がある場合はその都度情報共有をして対応している。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム にこピア浄法寺

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様の状態、ご家族の要望を見極め併設事業所サービスの提案をしてサービスの選択幅を広げられるよう声かけをしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できる事、支援が必要な事と利用者様の状況を把握して掃除、洗濯等職員と一緒に行動している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	必要に応じてご家族に電話連絡をして報告、相談をしている。他に広報を通じて現在の状況を写真、文面にて伝達している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	アルバムを閲覧して昔の背景を懐かしんでおられる。利用者様が「会いたい」等訴えがあった場合は広報、電話にて伝えて面会を通じ関わりをもっている。	コロナ禍以前は、馴染みの場所を推測してドライブのコースに加えていた。利用者が出掛けたことやその場所をすぐ忘れたとしても、その場で馴染みの場所であったことを思い出し、何かを感じてくれることが介護にとって大切としている。総じて利用者は、二戸市の男神岩・女神岩が馴染みの場所としている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールにソファを設置して利用者同士が会話しやすいようにしている。他に行事を通じて利用者同士が交流できるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後、求めに応じて情報提供、相談に対して返答してご家族様の不明点、不安点の緩和に努めている。		

事業所名 : グループホーム にこピア浄法寺

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	既存の情報に捉われず現在の状況と比較して対応に変化をつけている。本人様の希望に沿い、ご家族への電話、手紙と希望に合わせて支援をしている。	1名を除く他の利用者は、午前、午後の水分補給後の時間に塗り絵等を行いながら、職員と会話し意思等を自然な形で伝えている。意思を汲み取ることが難しい利用者に対しても、職員は、家族にすると同じように声掛けし、表情の少しの変化も見落とさないよう、寄り添いながら心の動きを把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面会時に新たな情報収集や本人様の会話から可能性を見だし、職員で情報を共有して既存のサービスに捉われないよう意識して関わりをもっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	最低月に1回ケースケースカンファレンスを行い利用者様個々の状態について見直しをしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的カンファレンスをして今、本人様に必要な支援を模索している。迅速度の高い場合は即時話し合いの場をもち早急に対策をたて対応している。	原則6ヵ月毎に介護計画を見直している。ケアマネは、職員会議で毎月行う利用者全員の日常の変化等についての意見交換を基礎に、ケース担当職員と方向性を協議した上で介護計画案を作成し、改めて職員会議での協議を経て成案としている。職員は担当する利用者以外についても熟知することを当然のことと受け止め、利用者の支援に当たっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状態を記録に残している。他に重要度が高い案件については連絡帳にも記載して統一した対応を心掛けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設事業所へ移動して普段と異なる利用者の方々と接する機会をつくっている。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム にこピア浄法寺

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	情勢により地域資源との活用は最小限であったこの点では利用者満足度の低下が見られた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関と連携をとり利用者の体調管理に努めている。体調管理で不明な点は指示を仰ぎ、必要に応じて受診対応をしている。	数年前に医師不在のため協力医療機関を近隣の診療所から市内のクリニックに変更し、6名が職員の付き添いで受診している。他の医療機関を受診する3名は、介護記録の写し等を持参して家族が付き添い、受診結果は家族から報告を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	申し送りの際、看護的内容について質問をして指示を仰いでいる。不在時は早急性を判断して指示をいただくようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院発生時、迅速に介護サマリーを提出して利用者様の状況を伝えている。入院後も定期的に連絡をとり状態把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時、重度化の指針について説明、同意を得ている。	指針では看取りを行うことが望ましいとしているが、対応する医療機関が見当たらないことから、これまでも看取りの実績はなく、今後も実現性は低いと考えている。入居に際し、本人、家族にその旨を説明し了承を得ている。食事を摂れない等、医療行為を必要とする段階に至るまでは事業所で介護し、必要に応じ、家族の意向を改めて確認し関係施設へ移送することとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AED講習を通じて知識の教養をしている。他に急変時の連絡体制についても教養している。		

事業所名 : グループホーム にこピア浄法寺

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域消防団員を交えて避難訓練を実施している。他、マニュアルの見直し、整備をしている。	消防署の立ち合いの下、地元消防団が放水、誘導、見守りの協力を行う中で、年2回の避難訓練を行なっている。夜間想定訓練も行っているが、暗闇での訓練の経験はないとしている。地域の避難所に指定されていることもあり、3日分の食糧の他、発電機等の資材も備蓄している。	夜間の避難は日中とは異なる課題が内在していることから、暗闇での訓練実施を目標に、まず図上訓練の実施を検討されることを期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室は個室となっており個人の空間の確保ができています。居室に個人名は記載しておらず居室名や目印をつけ利用者様が把握しやすい環境を整えている。	「温故知新」を今年度の目標に掲げ、利用者の能力や知恵を活かした介護に努め、利用者は、昔行った方法での焼き芋づくりや週1回の居室清掃、ホールのモップ掛けを嬉々として行なっている。排泄介助は自立の程度に応じ、排泄・入浴時の異性介助も利用者の様子を見ながら慎重に進めている。利用者の介護記録等の個人情報、施錠できるロッカーに保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表現したり、自己決定できるように働きかけている	会話の中で表現された事に対して極力実現できるようにしている。外出、行事を主として個別支援、集団での支援と見極めて実行している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れを決めておらず利用者様のペースを優先して生活している。散歩等希望があれば計画をして自己実現に繋げる支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服の選定、整容に時間をかけて自力で行えるよう支援している。意思表示の困難な方に対しては過去の情報をもとに職員で選定して準備している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立決める際、利用者様の意見も聞き作成している。食器の片づけ、テーブル拭きなど各利用者が自分で率先して行動している。	メニューは利用者の希望を交えながら、職員が概ね3日分を作り、地域のスーパーに買い出しに出掛けている。利用者は、普段のおやつづくりに限らず、焼き芋、お彼岸団子づくりのほか、「おにぎり会」ではおにぎりを握ったり、お鍋の具を切ったりのお手伝いで、行事食を一層楽しいものになっている。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム にこピア浄法寺

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量を記録して各利用者様の摂取量を把握している。水分量の減少が見られる方は味を変えて水分を勧めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	見守り、声かけを基本として自力で行うよう支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時誘導をして極力失敗のない排泄を目指して活動している。段階的に取り組みリハビリパンツから綿パンツとなっている利用者様もおられる。	居室は落ち着いて過ごす生活の場であってトイレではないとの考えから、昼夜を問わずポータブルトイレの使用はない。オムツ使用の1人を除き、残りの8名のうち6名は、布パンツ、パット使用を問わず自らトイレに立っている。誘導は、概ね2時間トイレに行かない場合や仕草をみてとしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	極力下剤に頼らず食物繊維のある献立の工夫、水分量、散歩等による活動量の増加と便秘の改善に繋がるよう働きかけをしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	健康面に影響しない程度ではあるが入浴時間を設けておらず、本人様が満足する時間まで入浴して頂いている。	週2回、火曜日と土曜日の午前中を入浴に充て、入浴が嫌そうな利用者には「着替えだけでも」と誘導している。入浴介助は着替えを含めて1名の職員が担当し、皮膚等身体の異常の有無も確認し、必要に応じ記録している。利用者が安心して入浴出来るよう、職員は如何に忙しくてもそれを気付かれないよう、現わすことのない介助を実践している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入起床時間を設けず、各利用者様のペースに合わせて支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	通院録、薬の説明書をもとに効果、副作用の確認をしている。不明な点は看護師に確認をして内容の理解に努めている。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム にこピア浄法寺

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	できる範囲で掃除、タオルたたみ、配膳等可能な限り役割をもっていたりしている。他、趣味に合わせて趣味の合った方同士で活動している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	情勢により自己実現の幅は大幅に減少された。可能な限り外出(散歩、外気浴)をして閉じこもりの防止に努めた。他に併設事業所へ出向き人事交流の機会をつくった。	コロナ禍のため、事業所の敷地を15分程度かけて散歩したり、花の水遣りなどで外気浴の機会を設け、室内では、広い事業所内で運動会やリハビリ体操を行なっている。外食もドライブも断念せざるを得ず、管理者は、一日も早く食べることが大好きな利用者に喜んでもらえるようなドライブを企画し、出掛けたいとしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	行事の際、利用者様と残金確認をしたり、支払いをご自分で払ったりと紙幣に触れる機会をつくっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話を設置しておりいつでも利用できる状態にしている。家族様から施設への電話では時折、利用者様とかわり会話をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	行事内容の写真の掲示、利用者様が手がけた創作物を掲示して振り返りを行っている。	玄関や廊下、階段が広く開放的で、窓が大きいので外の光がたくさん入る。廊下やホールには季節を感じる作品等が飾られ、雰囲気もとても明るい。共有のホールにはテーブルや椅子の他にソファやベンチも配置されており、利用者が集まって過ごすことが多く、みんなで一緒にゆったりとテレビを見たりDVD鑑賞等をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにソファを設置しており、利用者様同士で交流をしやすいよう配慮している。居室は個室となっており自分の時間を確保できるようになっている。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム にこトピア浄法寺

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 せるような工夫をしている	慣れ親しんだ時計、アルバム、創作物と使い慣 れた物を置いている。持ち物の制限は設けてお らず、いつでも持ち込みができるよう本人様、ご 家族様へ伝えている。	居室は広く、窓も大きくて明るい。ベッド、2人掛け のソファ、クローゼット、ヒーター等が備えら れ、新たに各居室にエアコンも設置された。ま た、利用者は、入居前にそうしていたように、週 に一度、自分が出来る範囲で掃除したり、アルバ ム等、馴染みの物を持ち込んで、居心地よく過 せるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づ くり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わ かること」を活かして、安全かつできるだけ 自立した生活が送れるように工夫している	廊下には手すりの設置。床はバリアフリーとなっ ており障害物は最小限である。床もクッション性 のある素材を使用している。		